

「税は国民の貯金箱」

久喜市立久喜南中学校

一年

廿浦

心美

私は、税金の勉強をするまでは、「なぜお金をはらわなければいけないんだろう。」
「税金なんて必要なのだろうか。」とっていました。しかし税金は、私たちのために使われているということを知り必要だと学びました。

例えば、私たちが使っている教科書や学校にあるパソコン、体育で使うとび箱やマットなども税金が使われています。

税といえば私が一番に思いついたのは、「消費税」です。二〇一九年の十月から消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられました。お母さんが初めは、三パーセントだったのと言っていたし、買い物へ行くと金額が思っていたよりも高かったのに消費税が八パーセントから十パーセントになってしまったらその十パーセントは、何に使われるのだろうかと思っていました。税金がどんなことに使われているのでしょうか。

例えば、学校へ着くまでにある道路、カーブミラー、ガードレールや信号機なども税金が使われていました。

また、私たちの安全を守るためにあるパトカーや救急車、消防車も税金が使われていると学びました。六十五歳からもらうことができる年金も税金だと知りました。

最初は、「なぜはらわなければいけないのだろうか」「税金なんて必要なのだろうか」と否定的に思っていました。しかしいろいろとしらべているうちに国民の生活に必要不可欠なものに使われていて、消費税などの税がないと、私たちは、教科書やつくえ、いす、黒板などが無いから授業ができなくなってしまうたり、警察官がいなければ安全を守れない。ごみの収集がなくなってしまうのでまちがごみだらけになってしまうということがあります。また、税金は、お母さんやお父さんたちが一生懸命働いて貯めているお金なので大切に使うていきたいと思いました。消費税は、十パーセントに上がりましたが、調べたことを考えると必要だと感じました。